

日本アルコール関連問題学会に対する期待

依存や嗜癖は深刻な健康・社会問題です。わが国が取り組むべき最重要課題の一つといっても過言ではないでしょう。依存問題はその当事者のみならず、周囲の人にも多大な影響をもたらします。2003年に私どもが実施した全国成人に対する実態調査では、アルコール依存症の疑われた者が440万人であるのに対して、他者の飲酒で悪影響を受けた者が3,000万人いると推計されました。アルコール以外にも多くの依存や嗜癖問題があります。ニコチン依存や他の薬物依存は今さら取り上げるまでもないでしょう。2008年の実態調査で、わが国のギャンブル嗜癖の有病率は他の先進諸国の数倍におよぶことも示唆されています。

さて、依存の回復には、専門性をもった多職種の協力が必要です。医療現場では、医師に加えてコメディカルの役割が極めて大切です。社会復帰に際しては、地域や自助グループの支援が欠かせません。当然のことながら、依存問題はその予防が何より重要であることは言うまでもありません。

日本アルコール関連問題の自慢は、予防から治療、社会復帰にいたるすべての専門職種を会員に擁していることです。それは取りも直さず、この学会の潜在能力の高さを示していると思われまふ。私は、この能力を生かして本学会が以下の四つの分野に貢献いただくことを強く願い、できる限り協力して参らうと存じています。

1. 予防、治療の向上に貢献する

依存・嗜癖の予防や治療方法はゆっくりですが、着実に進歩しています。たとえば、簡易介入技法、CBTや動機づけ面接の改良、新規治療薬物の開発などがこれにあたります。本学会はこの進歩を加速できる力があります。

2. 多くの依存・嗜癖に取り組む

本学会はその名前からアルコールに特化しているように見えますが、かなり以前から他の依存・嗜癖問題に取り組んでいます。今後、ますます多岐にわたり複雑になっていくこの問題に学会として対応していく必要があります。

3. 社会に貢献する

この問題はその性質上、様々な分野で専門性を必要としています。予防や治療以外でも、学会の貢献に対する期待は大きいと思います。

4. 若手を育成する

米国のアルコール医学会（RSA）は、若手の教育に熱心に取り組んでいます。本学会も次世代を担う若手の教育を従前にもまして推し進めましょう。

申し上げるまでもなく、会員の皆様のご理解とご協力があつて、はじめてこれらのことを前進させることができます。どうぞ、よろしく願いいたします。

日本アルコール関連問題学会理事長
樋口 進

日本アルコール関連問題学会会員各位

日本アルコール関連問題学会
 理事長 樋口 進
 日本アルコール精神医学会
 理事長 齋藤利和
 日本アルコール薬物医学会
 理事長 鈴木 勉
 アルコール関連問題基本法推進ネット（アル法ネット）
 設立委員会委員長 丸山勝也

「アルコール関連問題基本法推進ネット」賛同団体募集に関する協力をお願い

アルコール関連3学会は、2010年にWHOが決議した「アルコールの有害な使用を低減する世界戦略」を日本で実現するため、共同のアルコール関連問題基本法構想委員会(委員長：鳥帽子田彰・広島大学公衆衛生学教授)を発足、学会総会でのシンポジウム開催などを進めてきました。

同時に、アルコール問題に取り組む全国団体の連絡機関である「日本アルコール問題連絡協議会」(会長：佐藤喜宣・杏林大学法医学教授)とともに、基本法制定の大きなうねりを作り出していくため、「アルコール関連問題基本法推進ネット（アル法ネット）」の設立に向け動いています。

添付の設立趣意書にありますように、アルコールは心身の健康障害だけでなく、飲酒運転・自殺・虐待・DV・生産性への影響など多くの深刻な関連問題を生じさせていますが、わが国の対策は不十分で、しかも、個々ばらばらに行われている現状にあります。

そのため、基本法には次の点を盛り込むことが必要と考え、草案を練っているところです。

- 国からのアルコール関連の調査・研究費の充実
- アルコール関連問題総合対策会議を国、地方自治体に設置し、学会や会員の声が反映されるようにする
- 内科医、救急医、産業医などや関連スタッフが、地域の連携活動を促進し、アルコール関連問題の1次予防、2次予防、3次予防を可能にしていく
- 飲酒運転、自殺、虐待、DVなど様々な社会問題の軽減をめざす
- アルコール飲料やアルコール使用障害についての正しい知識を普及させる

つきましては、会員の皆様に緊急のお願いがあります。

別紙の趣意書をご覧ください、所属しておられる団体・医療機関・福祉機関・施設として、アル法ネットに賛同の意を表明していただくよう、働きかけていただきたいのです。

既に頂いた賛同団体名は、「アル法ネット」のホームページ（www.alhonet.jp）に掲載します。

ご協力を心よりお願い申し上げます。

アルコール関連問題基本法推進ネット [アル法ネット]

設立の趣旨

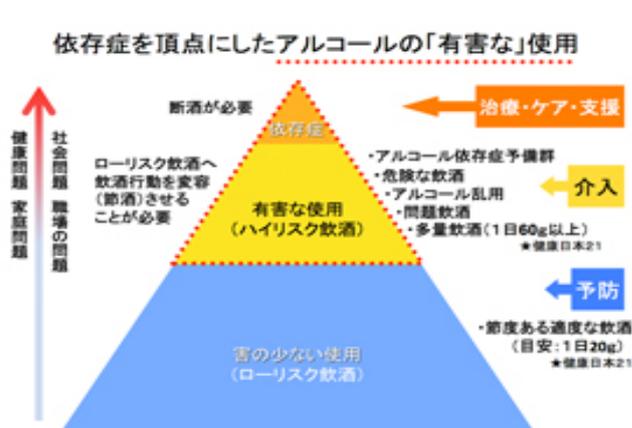
アルコール飲料は、日本では「酒は百薬の長」「社会の潤滑油」「飲みコミュニケーション」と言われ、さまざまな場面で活用されています。しかしその一方、飲酒に甘い社会の中で、アルコールの有害な使用が、多くの問題を招き悲劇を生じさせています。

【身体的健康障害】過度の飲酒が招く肝臓病・すい臓病などの臓器障害、高血圧や糖尿病などの生活習慣病、がん・脳卒中・急性アルコール中毒など致死的な疾患、酩酊に起因する外傷、胎児性アルコールスペクトラム障害など。

【精神的健康障害】アルコール依存症、アルコールが関係する睡眠障害・うつ・自殺、認知症など。

【社会問題・家庭問題】飲酒運転・DV・児童虐待・傷害などの犯罪、未成年飲酒、アルコールハラスメント（飲酒の強要）などの人権問題、家庭崩壊・失業・貧困など。

これらは、アルコールの薬物としての「依存性」「致酔性（中枢神経の抑制作用）」「臓器毒性」「催奇性」などによってもたらされる「アルコール関連問題」です。その特徴は、飲酒者個人だけでなく、家族や周囲



の人々、社会全体に深刻な影響をもたらすこと。この他者への有害性により、英国の薬物関連独立科学委員会では、20種の薬物のうちアルコールを最も有害な薬物としたほどです〔多面的基準判断分析総合有害得点：1位アルコール（72点）、2位ヘロイン（55点）、3位高純度コカイン（54点）〕。

2010年、WHOは第63回総会で、「世界でおよそ250万人がアルコールが原因で死亡しており、対策を怠れば事態はますます深刻化する」と、「アルコールの有害な使用を低減する世界戦略」を全会一致で採択しました。そして、「国が適切な行動をとれば、アルコールの有害な使用は低減できる」と10分野の対策メニューを示し、施策の推進と報告を義務づけました。今、世界の国々は、次々と対策を打ち出しています。

しかし、日本では対策がいっこうに進んでいません。

飲酒運転・うつ・自殺・震災後のストレス障害・DV・児童虐待・生活習慣病・認知症など、日本が現在直面している多くの重点課題にアルコールが深く関連しています。「アルコールの有害な使用の低減」に取り組むことは、これらの問題すべてを抑制し、ひいては医療費や社会的コストを低減することにつながるのです。

今、日本に必要なのが、以下の対策です。

- アルコールの有害な使用と関連問題についての実態調査・研究
- 国の対策のポリシーと効果的な施策の検討
- 幅広い関係機関、関連省庁による情報の共有と連携
- 予防・早期発見・介入から回復支援までの社会システムの整備
- アルコール依存症の偏見是正

私たちは、多岐に渡るアルコール関連問題に対応するため、これらの問題に関わる人々の連携を全国レベル・地域レベルで強化するとともに、国のポリシーとなる「アルコール関連問題対策基本法」の制定を推進していきます。

〈アル法ネット〉呼びかけ団体：日本アルコール問題連絡協議会 加盟団体 （50音順）

(特非)ASK(アルコール薬物問題全国市民協会)

アディクション問題を考える会(AKK)

アルコール・薬物施設連絡会

イッキ飲み防止連絡協議会

全国マック協議会

(公社)全日本断酒連盟

日本アディクション看護学会

日本アルコール看護研究会

日本アルコール関連問題学会

日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会

日本アルコール精神医学会

日本アルコール・薬物医学会

(財)日本キリスト教婦人矯風会

日本禁酒禁煙協会

(財)日本禁酒同盟

事務局：(特非)ASK(アルコール薬物問題全国市民協会)内

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-16-7F

TEL：03-3249-2551 FAX：03-3249-2553

**アル法ネットは2012年春の設立を目指し、
賛同団体を募っています！**

- 申し込みフォームで、賛同の意思を表明してください。入会金・会費はありません。
- アル法ネットのホームページに団体（機関）名を掲載、ホームページをお持ちの場合リンクします。
- メールアドレスをアル法ネットのメーリングリスト（ML）に登録させていただきます。
この問題に関わる人々の連携を広げるため、MLによって、情報交換・意見交換を行なっていきます。

団体(機関) 名	住所
電話番号	
ホームページ (URL) http://	ご担当者のメールアドレス

アル法ネット事務局にFAXしてください： 03-3249-2553 (ASK)

平成 24 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会開催にあたって

この度、平成 24 年 9 月 7 日(金)～9 日(日)に、第 47 回日本アルコール・薬物医学会、第 34 回日本アルコール関連問題学会、第 24 回日本依存神経精神科学会の合同学術総会を札幌コンベンションセンターにて開催させていただくことになりました。

この 3 学会はわが国のアルコール問題、薬物依存の研究と臨床の中心となる学会です。日本依存神経精神学会は、日本アルコール精神医学会とニコチン・薬物依存研究フォーラムが昨年合同し、その初めての総会となります。昨年までの 3 年間に渡る 3 学会の合同総会を経て、今回は新たに日本アルコール関連問題学会が加わり、名実ともに日本のアルコール・薬物依存関係の合同学術総会となりました。

そこで、メインテーマを「連携と発展 ～心技の共有と知の創造を目指して～」とさせていただきました。これらの研究に関わる研究者はもとより、臨床の現場や、社会的活動で関わっている方々が参集し、総合的に最先端の研究知見に始まり、実際の医療や社会的サポートまで議論できる場を提供させていただくことを考えております。

そのために、特別講演や基礎講座、様々なシンポジウム、ワークショップをはじめ、一般の方への市民公開講座等を企画して準備をすすめているところです。

また今回は、9 月 9 日(日)から第 16 回国際アルコール医学生物学会総会(ISBRA)が始まります。日本アルコール・薬物医学会理事長の齋藤利和札幌医科大学教授と ISBRA 理事長の Karl Mann Heidelberg 大学教授が会長で日本アルコール・薬物医学会と共同で開催する会議です。

皆様には国際学会にもご参加いただき、世界の研究者やアルコール・薬物問題に携わっている方々と交流していただきたく、会期の 9 月 9 日(日)に合同プログラムを企画しているところです。

9 月の札幌は平均気温 20 度前後と快適です。札幌市内へのアクセスは新千歳空港から JR 快速エアポートで 36 分、高速道路も通じており便利です。会場となります札幌コンベンションセンターは地下鉄東西線「東札幌駅」から徒歩 8 分ほどの場所にあります。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 47 回日本アルコール・薬物医学会 会長 松本 博志
(札幌医科大学医学部法医学講座 教授)

第 34 回日本アルコール関連問題学会 会長 山家 研司
(医療法人北仁会旭山病院 理事長・院長)

第 24 回日本依存神経精神科学会 会長 白坂 知信
(医療法人北仁会石橋病院 院長)